

第14回 逗子の未来協議会 グループワークまとめ

＜市民参加、情報共有、行政の姿勢、課題の解決に向けた仕組み、自治基本条例の制定に向けた取り組み、財政改革、逗子の政治、地域の住民意識、議会・議員の見える化、住民自治協議会＞

＜市民参加＞

グループ1

- ◆ 話したいこと
- ◆ 全体会議の開催
出たい人が参加する
直接市へ意見を出す
- ◆ 集まる場所
情報交換できる場所
- ◆ 市民参加の意味・定義
参加にはレベルがあるのではないか
- ◆ SNSの利用 → 若者の呼び込み
- ◆ 地域の限定
- ◆ 参加とは？

(participate) …動詞



参加する“目的”とは何かが課題・問題となる

①ある“目的”があつて、その手段として“参加”がある



②その目的の種類によって参加の仕方（プロセス）が決まる

- ・ 法律・条例など…市民が選挙という参加手段で選んで市議を作る
- ・ 日常性地域限定

例えば、児童公園をつくる：地域の住民と行政の担当部局（複数）が共に企画し、つくるプロセスに参加する
（映画「生きる」の例）

・ etc.



③参加の結果として成果が上がり、それが市民としての意識が上がる・高まることにつながる



④高まった市民意識の結果としてより良い町になる



⑤より良い町にする具体的目的がさらに生まれる

グループ2

- ◆ SNSの活用により若者を呼び込む
使わない人たちは、顔を合わせる場を作り関係作り
- ◆ 働いている世代の呼び込み
- ◆ 地域で考える → コミュニティの単位を小さくする



特に、逗子小学校区は大きすぎる。顔の見える関係

地域課題もより共有できる

ごみステーションのブロックや字単位など

丁目の境の関係（丁目の違いで分断されても向こう3軒両隣の関係でコミュニティはある）

- ◆ 小学校区にとらわれすぎず、コミュニティ単位で考えた方が進むのではないか

<情報共有>

- ◆ 情報発信
 - ・各課発行の広報誌等、多くの人に知ってもらうには
 - ・土地・地域の特性についても、情報共有・発信が必要
→（市がフォローを）
 - ・インターネット・スマートフォンの活用、HPの充実
→ 高齢化の中では難しい。まず紙ベースで、インターネットは二次的なもの
 - ・未来協議会の周知
→ 広報誌にレポートを入れる
→ 保存できるようにした方が良い
小さい記事では目立たない
挟み込みではなく、本誌の記事で
 - ・広報誌と市議会だよりのスタイルを合わせた方が良い
→（コスト面もあるが）広報誌と合わせられないのか
- ◆ 防災無線
 - 反響して聞こえない。数回繰り返したほうが良い
最低2回、内容によっては回数を変える
- ◆ 「取りに来てもらう周知」ではなく、「こちらから渡していく周知」をする

<行政の姿勢>

【議会・議員について】

- ◆ 接点がなくてどのように仕事をされているか不明
(議会だよりを読むくらい)
- ◆ 市民と行政で自治基本条例を作っても議会で否決されたら困る。行政として、どのように議員に伝えていくか
- ◆ 議員は市民参加を望んでいないのでは。
議員と市民のつながりも希薄に感じる。市民感覚との違いも感じる(前向きな建設的な発言が少ないし、勉強不足では…)
- ◆ 今回の市の財政対策に対して、良い悪いの意見を述べるが、代替案の提示ない。
稼ぐ方法考えてない。

【職員について】

- ◆ 2割しか在住者いない。逗子在住を優先的に採用してはどうか?人口確保のメリットもある。

【前向きな稼ぐ方法】

- ◆ 外から人が来る工夫を考えないと
(ex) 高いビル、泊まれる場所の確保、ホトトギスの碑、大学祭
- ◆ 大崎公園でバルーンを上げる
- ◆ 市民のアイデアを反映させる仕組み作りが必要。今までのことを継続しているだけではダメ。観光資源の活用
- ◆ 逗子の最大の観光資源である海岸や披露山公園等で通年を通してイベントができるように活用する
- ◆ 市職員や議員のアイデア等が出ていない。市民の方が良い案をもっているのですの案を大切にしていって取り組む

<課題の解決に向けた仕組み>

グループ1

- ◆ 住民自治協議会をきっかけとする。
 - ◆ 各自治会等が集まって話をするので、互いに情報共有や話し合いをする場ができる
 - ◆ 地域での課題を解決するために少しずつ動くようになってきている
- ↓
- ◆ うまく動かない、にぶい所もあるので行政のリーダーを他地域との入れ替えを行うなどすればさまざまなことが見えて、もう少し動きが良くなるのではないかと

- ◆ 自治会の活動を活発化することにより、互いの顔が見えたりし、今まで問題や不安等が少なくなったりしている
- ◆ 自助・共助・公助
- ◆ 地道に動いていかないとそんなにすぐにはうまくいかない
- ◆ リタイヤした人が活動することが多いが、少しずつ若い世代を巻き込んで活動していく必要がある
- ◆ まずは、住民自治協議会を知ってもらう必要がある

グループ2

- ◆ 行政と議会との横のつながりが必要、不足している、縦割りとなっている
- ◆ 議会の見える化が必要。議員の意識改革が必要
 - 議員の活動が見えにくい
- ◆ 行政と議会の関係を改善していく
 - それぞれの役割を明確にする。充実させる。項目を入れる
 - あるべき役割（市長・議会・市民）
- ◆ 市民参加によって議会が浮き彫りになってしまっている
 - 市民と行政の関係が近くなった
- ◆ 市民も議員に対して関心をもつ必要がある。市民にも責任はある
- ◆ 陳情・要望 ⇒ 答弁 ⇒

議会	行政	その後が見えない やったかどうか報告してほしい
----	----	----------------------------

 - ↓
 - 条例に盛り込む必要がある
- ◆ 議員立法で自治基本条例を提案する
 - ⇒ 議員が条例に責任をもつ

【住民自治協議会について】

- ◆ 緊急財政における住民協のあり方は？
 - 重要課題となってほしい。進めてほしい
 - ↓ 養成
 - 人員の要請、進められる人をどうするか？
 - コーディネーターを増やしてみても
 - ↓
 - そういう人がいないと進んでいかない 人材育成
 - リーダー、職員、市民…
 - 今は形式だけで動いてしまっている
 - 課題を発見できるように

グループ3

- ◆ 小学校区について（住民協）、地域格差がある
知らない人がいる ○逗子小学校区
他の小学校区は昔からまとまりがある
逗子小学校区
→ 区域が大きい、そこまで必要であるのか？
→ 新しい人や昔からの人やいろいろな人がいる
↓
どうすればいいか？ → 防災の面から必要
一つに集まる場所がない。集まりやすい場所が必要
→ サロンの形で集まることはできている。ただし、時間は自由
情報を共有できれば変わってくるのではないか。連絡網は？
- ◆ 市民の活力を地域に生かしていく
- ◆ メリットがあれば参加するのでは
- ◆ 人から知恵をもらう
- ◆ 逗子に働ける場所を作る。地場産業、逗子海岸、海藻とか
→ 働きながら子育てをする。高齢者の雇用とか
- ◆ 自然としてあるべき姿を大切にする
→ 逗子海岸 → 海藻を拾いすぎない、回収しすぎない
打ち上げられているのが本来の姿

【防災】

- 障がい者が参加できる仕組みを

<自治基本条例の制定に向けた仕組み>

グループ1

- ◆ この場で何をやってきたかの情報発信の仕方、アウトプットとして
- ◆ 議論した内容をどう条例に落とし込むのかが見えない。項目・内身それがどう活かされるのか
- ◆ その先を考えたい。ここで話したことが何らかの形で反映されることを希望
理念的なものになる → 実行していくことが大事
逗子の人はいろいろ活動している。市としてどうまとめるのか
そのために「行動委員会」をつくって
- ◆ 参加者と職員が労力を使っているもの → 後に残る
逗子で何かを決める時に使える
- ◆ 条例の形にすると個人の想いが反映されるとは限らないが、プロセスに意味があ

る

- ◆ 意見を集約するだけならアンケートでよかった
WSを使った → 「総意」として
- ◆ 基本条例は簡単で分かり易い
- ◆ 専門家検討会チームの中にどう意見を報告しているのか
条文+市民の意見として報告（データベースとして）

↑

事務局で集約

- ◆ フィードバックというプロセスが必要
入口と出口の話がいっしょくた
条文が出てからさらに議論が必要では
- ◆ 平成 30 年から市民団体として未来協議会を継続したい
- ◆ 条文制定のロードマップが必要
- ◆ 白紙の状態を示して、意見を集めた
- ◆ 検討会の資料をリンクするなど情報共有

（発表内容まとめ）

- ①WS をどんなプロセスでどんな議論されて、どう反映されているのかがフィードバックされない
- ②スタート（協議会スタート）からゴール（条例制定ゴール）に向けてのロードマップを明確にして示してほしい
- ③検討過程の情報共有
- ④作った後、どんな仕組みで実効性あるものにすべきか議論すべき

グループ2

- ◆ 毎回全体を見せて「どこ」か見せる
- ◆ テーマが唐突に感じる

↓

継続してつながって利用されていない

- ◆ 実効性？実行性？
- ◆ トップダウンとボトムアップの融合して

<財政改革>

グループ1

- ◆ 行政主体のイベント
どの割合（程度）の関わりかが分からない

- ◆ 行政は情報公開を大事にして、市民に役立つようにしてほしい
- ◆ 逗子海岸の砂が葉山港の突堤延伸で潮流の変化のため削られていることは県、池子の米軍用地を早く返還してくれということは国との問題だが、市民の声を反映してほしい

グループ2

- ◆ 「逗子子ども風土記」には、昔の名主の旧家の事跡が詳しく載っているが、もっとほかにも逗子の風土として語られることがあると思う。逗子在住時、芥川賞を受賞した作家や受賞作なども良いと思う（風土は政治と関係あり）
- ◆ 環境は政治の重要課題であり、自治の中でその保全とか尊重が求められる（例えば、古道の道路舗装を工夫して親しみをもってもらえばハイカーがふえるかもしれない）
- ◆ 政治は長期的な視野に立って考えなければならず、自治においてもその検討が必要である。その場を市民自ら用意すべきだ
- ◆ 高層化の動きが最近中心部2か所ほどにあるが、これはあまり広がると風通しを悪くするとか景観を損ねるので、市民が制御できるようにしたい

<地域の住民意識>

- ◆ 市民参加の基本
- ◆ 市の歴史
S30～50年代、開発が行われてきた
- ◆ 地域によって住民の意見は違っている
- ◆ 地域を感じることができる
- ◆ 住民協が機能していない

<議会・議員の見える化>

- ◆ 条例制定には議員の理解が**必要**
- ◆ しかし、市民も市と議員の連携が不明

←
議会報告会の開催（逗子市は開催が少ない）

不信感

仕事が見えてこない



◇ 定数の見直し、委員会等への市民参加

- ◆ 条例等で規定を盛り込み、議員と市民の距離が縮まるようにする

＜住民自治協議会＞

- ◆ 逗子地区が作れないのはなぜか
- ◆ 桜山がイニシアチブを取ればいい。桜山だけでも立ち上がっていると言える
- ◆ 逗子が置いてきぼりになっても仕方がない
- ◆ 先行している地区を参考に
- ◆ 協議会に市議員が反対しているのが問題
- ◆ オンブズマン制度が必要（議会をチェックする）
- ◆ 駅前がいいことばかり言っている。実行しない
- ◆ 自治基本条例と住民自治協議会が両輪になってはじめて機能する
- ◆ 協議会と子どもの施策は最重要
- ◆ 長野県では市議会が基本条例を作っている
- ◆ 市民協働コーディネーターをたくさん育成する